

シーン4

「ウエーイ w チーメン見てるー? w w w あ、間違えた」

「元、チームのみんな、ほら、センパイもあいさつあいさつ♡ アタシ達のビデオのお客さんなんだから、とってもエッチに挨拶しないと……」

「うーん、まだ、心が折れてないかー、まあ、嫌がるセンパイをアタシのおちんぽでお仕置きしてあげるのも、人気みたいだし、別にいいかあ。くすす」

「それじや今回も、元チーメンのみんなにも楽しんでオナつてもらおうね♡ センパイはちょーっち、おとなしめだけど、ただ恥ずかしがつてるだけ♡ カメラがないところではひいひい喘いで、お尻で感じまくってるんだよ♡」

「くふふ、リハーサルのときのアクメつぶりって言つたら、マジで、ウケるぐらい、凄かつたし♡ ね、センパイ♡ もう洗脳もほとんど完了つてカンジかな?」

「けど、最後に墮ちてるところ、元仲間のみんなに見てほしいし? せつかくなので、次に中出し射精されたら完全にメス穴人間に書き換えられるようにちょーせーしてるんだよ♡」

「司令くん、後輩ちゃん、それに他のメンバーのみんな、センパイがちゃんとメスに、正確には、怪人メス穴人間に墮ちちゃうところ、しつかりと見ててね♡」

「はい、センパイ。四つん這いになつて、お尻をこっちは向けて。そういう、すぐに言うこと聞いてくれたね。こういうところから、センパイの洗脳はしつかりと進んじやつてしまーす♪」

「さて、どんどん行つてみるよ」

「それじやあ、まずはアナルの感じから。指先で、こうやつて、んしょ、んしょつてほぐすと、くふふ、ローションもつけてないのに、肛門がほぐれちゃつて」

「アタシの指を簡単に、ずぶぶつて、受け入れちやいます」

「すつごいよね、中からは、ふたなりチンポを欲しがつて、さらさらの腸液が溢れてきてるし」

「ちよつと人指し指で、ずつちゅずつちゅ、つて抜き挿ししたら、透明なおねだりのお汁がたつぷりと手のひらに溜まつてきちゃう♡ あはあ、これぞメス穴つて感じだよねー♡」

「あんなに立派なリーダーだったのに、もう、オチンポの受け入れ準備OKつてカンジみたいだし」

「ね、センパイはもう立派なメス穴人間だよね? ねえつてば? あれれ、返事は? まだ否定しちゃうんだ」

「こうやって、指をんしようと、二本入れて、じゅぶじゅぶしても、まだ余裕のあるぐらいい、アナル拡張されちゃつてるのに……」

「もうお尻の中の、綺麗な粘膜まで、みんなに丸見えだよ♡」

「くふふ、二本指を抜いたり、入れたり、こうやつてすると、わあツ、肛門がいやらしく裏返っちゃって……みんな、これがセンパイのお尻の内側でーす♡」

「あ、センパイもお尻、振ってるね。ほら、これが墮ちてる証拠。口ではだんまりだけど、男は黙つて態度で示すんだよ」

「お尻ふりふりして、肛門への指ピストンで、ひいひいよがつちやつて、センパイ、可愛い♡ お尻の穴もヒクヒク蠢いてえ、指にきゅつきゅつて吸いついてくる」

「これつてオチンポからザーメンを吸い出そうとするのと、おんなじ動き♡」

「身体はしつかりと、アタシのふたなりチンポを欲しがつちやつてるんだよね♪」

「二本指を、フックみたいに曲げてつと、前立腺をごりごり刺激しながら、お耳も舐めちゃうね」

「センパイ、前の時も、耳舐めして、すっごく感じてたよね♡ 今度は我慢しなくていいよ、お尻でこれだけ感じてるんだし。耳ではあはあ喘いでも、全然、おかしくないよ」

「くふふ、男らしくメスに堕ちちゃえ♡ 前と同じように前立腺を責めながら、ん、んん♡ センパイのお耳をいただきまーす」

「今度は、右のお耳の穴を、ふーふー、あ、感じてる、感じてるね♡ 耳の感度も、だいぶ開発されてきたつてカンジ？ 少しづつ舐めたりもいいけど、今は、んちゅぶ、ちゅばッ♡」

「いきなりベロでピストンしちゃうよ、れる、れる。唾液もたっぷりとまぶして、耳の穴を、ちゅぶちゅぶ、んちゅぶ♡ ほら、奥のほうまで、ぢゅぶぢゅぶ、んぢゅうツ♡」「

「ちゅちゅ♡ ちゅるつ♡……じゅるつ♡ じゅぽ♡ じゅぶふ♡……んちゅ♡ ちゅ♡……れろ、れろれろ♡……ん♡ んーつ、んちゅ♡……ちゅぼつ♡」

「やつぱり耳、感じるんだね？」

「今度は素直になつて、いっぱい喘いで、よがつちやつて♡ そうしないと、アタシも責めがいなしさ。んちゅばちゅば♡ お尻をごりごり混ぜながら、お耳を犯すの最高♡ ちゅばッ♡」

「耳でアナルまでいやらしく反応するのも一緒つてカンジ？ けど、んんツ、肛門の締めつけ、すつごくキツくなつて、身体がどんどんいやらしいメスになつての丸分かりだね」

「センパイのメス化がアナルの締めつけでわかるつて、結構、大発見かも♡ 画面の向こうのチーメンのみんなに伝わらないの、ちよつち残念すぎー♡」

「もつとベロを激しく、んぢゅぶツ、ぢゅぶツ、混ぜ混ぜしちゃう♡ これで、もつと気持ちよくなつて♡ んじゅぶぶツ♡」

「んちゅ♥……ちゅちゅ♥　ちゅるつ♥……じゅるつ♥　じゅぼ♥　じゅぶぶ♥……んち

ゅ♥　ちゅ♥　最後はセンパイの耳を丸ごと咥えてえ、あむあむしまーす」

「あむ、はむう……これでえ、センパイの耳はアタシの唾液まみれで♥　マーキングもば
つちりだよね。くすす」

「じゃ、次は左のお耳♪」

「ね、お耳、ひくひくして、もう期待してるの？　ふーふー、って息噴きかけて、あ、今、
エッチな声出したよね」

「息だけで軽くアクメつたり、してないよね？」

「それじや左の耳穴も、ツユダクのベロで混ぜませするね。んちゅぶ、ちゅば♥　くふふ、
舌で耳の中までレイプされて、メスみたいに喘ぐセンパイ好き♥」

「もつと、声出して、よがれるように、どんどん奥へ舌を入れてえ、んれろお、じゅぶぢ
ゅばッ、んじゅぶ♥」

「じゅぶぶ♥……ちゅばつ♥……じゅるつ♥　じゅぼ♥　じゅぶぶ♥……ずちゅつ♥　ん
ぶっちゅ♥　いっぱひ、ピストンしていくよ♥　ぢゅばぢゅば♥」

「センパイのメス声、耳を責められて、はあはあしててる声、最高♥　もつと鳴いて、いや
らしすぎる声、聞かせて♥　ぢゅば、ぢゅばッ♥　耳の一番、奥まで、じゅぶぢゅば、ん
ぢゅばッ♥」

「耳の穴はもう完全にメスだよね、センパイ。ベロでめちゃくちゃに犯されて、ひいひい
喘いじやつてほら、もつと気持ち良くなれ、堕ちちゃえ♥　耳舐めで、メスになつちやえ
ぢゅばッ♥」

♡

「こつちのお耳も、丸ごと咥えてえ、あむあむしちゃうね。はむ、あむツ……これで、セ
ンパイの両耳はアタシの唾液まみれ♥」

「もうセンパイはお尻の中も、メスキ姿も全部、みんなに見られちやつて、ほとんどメ
ス穴人間なんだよ♥　はむう♥　それ以上、抵抗なんて意味ないし♥　アタシ、堕ちや
つたセンパイ、見たいな」

「アタシは怪人になつちやつてるし、センパイも堕ちてヒーローやめても一人じゃないよ、
んちゅぶ、ちゅば♥」

「ちゅぶぶ♥……ちゅじゅつ♥　ずちゅつるつ♥……じゅぼつ♥　じゅぼぼつ♥……ん
ちゅ♥　ずちゅちゅ♥　はふ、これぐらいで耳責めはおしまい」

「だつて、センパイ、マジで半堕ちしてたし……最後はさ、あふ♥　このアタシのふたな
りデカマラで、天国へ送つてあげる♥」

「ね、どうするか、わかってるよね。メス穴人間なんだから、無理矢理入れられるなんて
ダサイよね」

「一番、スマートなやり方をみんなに見せてあげよ。うん、そうだよ。くふふッ、最高に上出来すぎ♡」

「お尻を自分から突きだして、そういう、アナルを差しだすのが、メス穴人間のボーズだよね♡」

「正義の味方のリーダーだけあって、センパイ、マジ飲み込み早すぎ♡ じゃあ、おねだりしてくれたセンパイの中に、んんツ、マラピーチちゃんのふたなりチンポお、突きこんじやいまーす。んうううツ」

「さ、センパイ、もつと息を吐いて」

「うん、そうだよ、ラクにして。自然体でオチンポ受け止めないと、お尻の穴、壊れちゃいますよ、んふお、んふおツ♡」

「ハアツ、ハアツ♡……ふあツ♡……んつ、んあつ、はう♡……ふつ、つふあ、んんつ……はあ、はう♡……ふー、ふー♡♡」

「お尻のなか、ん、んん、少しぐちゅぐちゅって混ぜてあげるだけで、もうよがつちやつて、んふ♡ チンポで貫かれるカンジはどうですか？」

「メス穴に犯される悦びを、正直にみんなに伝えてください。ちゃんと言えたら、デカラのご褒美、たつぶりあげますよ♪ んふ♡」

「ほら、カメラに向かつて」

「あは、言えましたね。さすがはセンパイ♡ これで、センパイは身も心もメス穴人間ですよ♡」

「もう、アヘつてないで、カメラを切り替えてズームにしますから、涎を垂らして、だらしなくアヘ蕩けきった顔を、みんなに見せてあげて♡」

「くふふ、こうやつて中をぐちゅぐちゅつて、かき混ぜられるの気持ち良いんだね」

「センパイはもう素敵なメス穴人間だもんね。んう、んうう♡男なのにお尻でよがつちやうマゾだつて、卑下しなくていいんだよ♡ 立派なアナルの、改造人間なんだし♡」

「あひ、あひい、センパイのメス穴、マジ最高すぎい♡」

「センパイも良すぎて、いやらしい腰振りダンス、止められないんだ」

「アナルをぐちゅ混ぜにされて、オチンポも暴発しそうなぐらいそり返つて、あとちょつと、出しちゃいそうだね。オチンポの中にもたつぶりと濃厚な精液、べつべつ溜まつちやつてるのかな？」

「奥から出たい出たいって、ぎとぎとのせーしが上がつてきちゃつてたり？ もうw 黙つても無駄だつてば」

「先走りもどつぶどぶ溢れて、床がぐしょ濡れだし。ビキビキにそそり立つたチンポも、ビクビク震えて、限界なの見え見えだし、あは、出したくてたまらないって、切なそうな顔してる♡」

「ハア、ハア♡ ハアツ♡!!……くうつ！ んふう♡!!……んあ♡ ふあつ♡!!……つふ

あ、んんつ♡!!……はあ♡ はう♡ ね、前立腺のここ、気持ちいいんだよね。お尻振つてるのも、ここで感じて、びゅるるるるって、お漏らし射精したいから、なんだよね♡」「それなら、んう、んうう♡ ほら、出せ♡ 出しちやえ♡」

「アナルで前立腺、思い切り押されまぐつてえ♡ ザーメンミルク、出しちやええ♡」

「チンポミルクをびゅっくびゅく、射精♡ ふたなりチンポに突かれてえ♡ どびゅどびゅどびゅ、びゅびゅツ、どびゅるるう、つて！ ところでん射精、たつぶりしちやえーツ♡ んううーツ!!」

「あは♡ 出てる♡ センパイのオチンポから、ところてん射精しちやつてるし♡ ほらツ、ほらほらほらあ♡ ずっとアタシ、ピストンするから、存分に射精しちやつていいよ♡」

「エツチなザーメン、ちょっと出しすぎかも。アタシのデカマラに思い切り突かれて、匂いも濃さも、申し分ない、最高のところてんができちやつたね♡ くふふ♡」

「でも、センパイがメス穴人間になるなら、精液なんていらないよね。代わりに射精が気持ち良くなる、お薬開発して、たまたまに入れてくれるね」

「ああツ、センパイの無駄打ち見てると、興奮しちやつて勃起したふたなりマラ、もつと大きくなつてきちやう♡」「アタシの下半身にも、新鮮なザーメンミルク、たつぶりと溜まつて、はふ、もういっぱい」といっぱいかも。そろそろ、出しちやうし♡」

「あ、あつ、あー♡ ……ふぐう♡ ……ハアツ、ハアツ♡!! ふあツ♡!! ……ん！ ふう

♡！ ふうつ♡!!」「あは……んふう……アタシの生出し、全部受け止めてくれたね、センパイ♡」

「う、うう、センパイのメス穴に、んんツ、出すソ♡」

「くうううう——ツ♡♡♡」

「この時のために、あふう……オナ禁して、たつぶりとチンポミルク、溜めてたんだから、んお、んおお……♡ ほらあ、まだたくさん、出るよお、んふお……んおふお……♡」

「あああ、センパイのメス穴に出すの、幸せ、アタシ、本当にふたなり怪人になれて、良かったあ……あ……あ止まらないでしょ、射精……あ、ふああ……これがアタシの気持ち♡」

「全部受け止めて、良くなつて……あはあ……んふう……アタシの生出し、全部受け止めてくれたね、センパイ♡」

「あれ、どうしたの、緩みきつたイキ顔のままで……ねえ、しつかりして♡ 最後にセンパイがメス穴人間になつたことを、みんなに宣言して、教えてあげないとダメだと思うし」「あーあ、センパイはぐつたりしちやつてるから、代わりにアタシがw ほら、ぴーすぴーす♡ えーぶいビデオの締めは、出してもらつた精液とイキ顔をアピールしてみんなのシコネタにならないと」

「みんな、見てー、センパイは完全敗北、完堕ちして、可愛くて、エロエロなメス穴ちゃんに、なつちやいました♡」

「はいカメラに向かって、うん、そう♡ メス穴ちゃん、ピース、ピースw アヘ顔、ダブルピースでケツ穴から精液吹き出してる姿、とってもお似合だー♡ ウエーイ、ぴーす

ぴーす♡」